

社会福祉法人 E.G.F

～Easy Going Farm～

～農業維新は萩から～



社会福祉法人E. G. F

平成20年 4月 NPO法人 E.G.F設立

平成20年 10月 就労継続B型事業所『のんきな農場を設立し、農業に取り組む

・空中栽培メロン、有機栽培イチゴに生産に取り組む

平成22年 4月 社会福祉法人認可 重度障がい者の受け入れ開始

・山口県特産品種『岸根栗』、はぜ掛け米の生産

・自社農園特製のジャムやスイーツなど6次産業化へ取り組み

平成27年 4月 6次産業化ネットワーク事業 認可

阿武町・農業生産法人「福の里」と共に
『阿武町農福連携協議会』を設立

E. G. Fの歩み



～ やるき・のんき・こんき～

社会福祉法人 **E.G.F**

〒759-3204

山口県萩市大字下小川1000番地

Tel : 08387-4-5838 Fax : 08387-4-5839

<http://e-g-f.jp/>

「のんきな農場」	就労継続B型	27名	}	(定員58名)
(Easy Going farm)	就労移行	6名		
「のんきな農場」	生活介護	19名		
小川事業所	自立訓練[生活訓練]	6名		
「ばすけっと」	グループホーム			(定員44名)
	ショートステイ			(定員 4名)
	日中一時支援			(定員 3名)
「ぷらっと」	相談支援・移動支援			
「タッチ」	放課後等児童デイサービス事業所			(定員10名)

のんきな農場 理念

のんきな農場は季節それぞれの太陽と空、風と水、他の花に先駆けて咲く梅の時期から土を作り、種をまき、苗を育て、収穫する。そのコツコツと単調なまでの地道で根気のいる農作業をゆっくり、のんびりと育て、喜んで、おもしろがる。そんな農作業の中で育てた農産物を元気と共に皆様にお届けするのが私たちの役割です。このことがいつしか、働く気力や体力を養い、ハンディを持っていても、生活のできる基盤を自らの手で掴み取る姿に発展した時、彼らの本当の力の偉大さを知ることでしょう。



従来の知的障がい者の就労支援の在り方から
障がい程度・能力にあった作業の環境を設定できる
自然の中での労働は、最大の福祉ケア
過疎地での農地管理、雇用創出
「農業法人」+「社会福祉法人」の連携

障がい者であっても農業の担い手になれる

活動がなぜ農業なのか？

‘仕事’

さあ 仕事行こうか

嫌だ 行かない

もうみんな行ったよ

嫌だ 行かない

どうして

おなかへるもん 嫌だ

そうかあ 何もしなくても おなかは減るぞ

う...う～ん そうか...

DAY active

多機能型事業所

のんきな農場

(江崎事業所)

障がい者就労継続B型 定員27名

障がい者就労移行支援 定員6名 計33名



DAY

～江崎事業所～

- ①活動内容を下請け作業、室内作業ではなく
‘農業’を
- ②生活リズムと体力(持続力・集中力・忍耐力)
- ③障がい者を前面に出させる、‘本物’を
- ④旬を大切に
- ⑤経験と体験、手間と手をかける
- ⑥「ゼロエミッション」に取り組む
- ⑦営業を考える

具体的活動

ハウスでイチゴの高設栽培、親株育苗、野菜苗、花苗の栽培を行う。

イチゴは章姫イチゴによる‘有機栽培’‘わかば農法’を生産方法とし、現在ハウスは6棟となっている。

植物が本来持ち合わせる成長力を最大限に生かす環境を整え、自然界に近い形での栽培を行い、化学肥料、化学農薬に頼らない方法で自分たちも安心して食べられるイチゴ作りを念頭に置く。

また、常に技術、製品率の向上を目指し、ポイントごとに研修に出向き実践に役立てていき、E. G. Fの中心作物としての役割を担っていく。

苗栽培については強健でしっかり育つ苗を提供するため、一つ一つの作業を丁寧に行い、消費者の方のニーズも聞き入れ、満足いただけるものづくりを目指す。

また、自家農園栽培用の育苗も行う。

DAY

～江崎事業所・いちごハウス～

江崎事業所 ~いちごハウス~



江崎事業所 ~いちごハウス・作業~



江崎事業所 ～いちごハウス・作業～



近郊の田畑、ハウスを借用し、農作物を栽培する。

主には協力農家の借用地を利用し、アムスメロン、アールスメロン、露地野菜を栽培する。

メロンについては、ブランド化を図る目的で栽培し、完全有機物肥料を使い、農薬の使用は最小限に抑え、温度管理、水分量の調節の徹底、芽かき、誘引、玉拭き、除草等をはじめ、播種から収穫までの栽培管理を、手間を惜しまず行い、日々観察、研究（栽培法、品種選抜）を行い、品質向上に努める。

露地野菜についても、近郊借用地にて、米（コシヒカリ、もち米）、玉ねぎ、トウモロコシ、サツマイモ、キャベツ、白菜、ブロッコリー等を栽培する。

露地物についても化成肥料の使用をおさえ、減農薬を目標に、安心できる作物の栽培を目指す。

また、土地を活かせる作物を栽培するために、ジャガイモ、菊芋、ヤーコン、生姜等、新たな試験栽培を試みる。

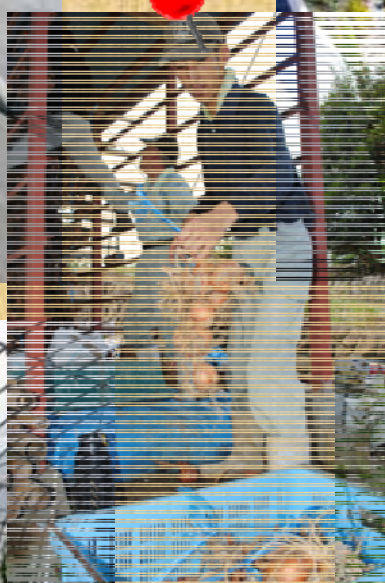
DAY

～江崎事業所・めろんハウス～

江崎事業所 ～めろんハウス～



江崎事業所 ～めろんハウス・作業～



農産物、加工物の製造を受け、イベントや外部販売を計画し、売り上げの確保とPRを行う。

季節の素材を定期的にラインナップに組み込み、野菜、果物、加工品等の品数を年間通して揃えることで固定客を増やしていく。

E. G. Fの理念から、昔ながらの‘ばあばの手仕事シリーズ’の技術を継承していることも押し出し、商品の宣伝を進める。

また、協カボランティア、法人立ち上げ時からの顧客、販売先との関係性を重んじることを忘れず、継承性を持たせる。

合わせて、市内中心部、企業、官公庁に出向き、個人顧客を中心に販売するほか、レストラン、菓子店等とも提携し、定期販売先の確保に努める。

DAY

～江崎事業所・販売加工班～

江崎事業所 ～江崎販売・加工班～



小川事業所 ~小川加工場~



江崎事業所 ～江崎加工場・販売：作業～



小川事業所 ～小川加工場・作業～



EGF 販売物 一例です



販売物

項目	H22	H23	H24	H25	H26	H27 (見込み)
生産物 売上(¥)	7,214,954	7,789,481	9,890,000	9,307,000	9,850,000	13,00,000
	障がい者が生産・加工した売上げ					
福祉事業 収入(¥)	101,059,729	113,231,222	127,210,000	238,856,481	219,266,000	234,618,000
	障がい者支援事業の事業費					
利用者 移住(人)	10	2	14	3	2	2
	他市町村より当法人グループホーム利用					
職員移 住(人)	2	0	2	0	2	1
	他県よりの移住。家族含む					

活動実績

借用農地(小川地区栗園)にて栗の栽培管理を行う。山口県原産の品種(岸根)を中心に栽培していき、この品種に関しても、他との差別化を図りブランド化を目指す。

また、受託作業として、周辺地域の個人宅、または企業周辺の清掃に出向き、建物周辺等の管理作業(草刈り、花壇整備等)を受託し、定期的に管理を行う。

一か所ずつ丁寧に行い、信頼を得るような仕事を心がけるとともに、受注側の要望に可能な限り応えられるような体制づくりに尽力し、さらなる受注増につながるよう努める。

DAY

～江崎事業所・受託班～

江崎事業所 ～受託班・作業～



江崎事業所 ~受託班・作業~



多機能型事業所

のんきな農場

(小川事業所)

障がい者生活介護事業 定員19名
障がい者自立訓練 定員6名 計25名



DAY

～小川事業所～

一人一人が適した‘しごと’を持つために、得意な能力、技、丁寧さ、作業の取り組み姿勢などを見極め、それに見合った支援を行い、‘生活する力’‘仕事をする力’を身に着け、ひとりの人としての‘自律’した、その人らしい主体的な生活を送ることができるようにステップアップを図る。

専門家が個々の能力を見極めて、個別のプログラムをたてる。一人一人の24時間の生活をコーディネートし、生活の質を確保していけるように努める。

24時間の生活の一部としての‘仕事する力’を身に着け、定められた時間の中で作業を毎日続けることにより、‘労働習慣’の取得を目指す。

小川という、自然豊かなこの土地で、自然のリズムに合わせた活動を行い、四季を肌で感じ、体感して生活する。

また、旅行や紅葉狩りなどの行事を通して様々な体験をし、人生の可能性を広げ豊かな生涯を過ごしていける様支援する。

DAY

～小川事業所～

小川事業所 ～小川農場～



小川事業所 ～小川農場・作業～



小川事業所 ～小川農場・作業～



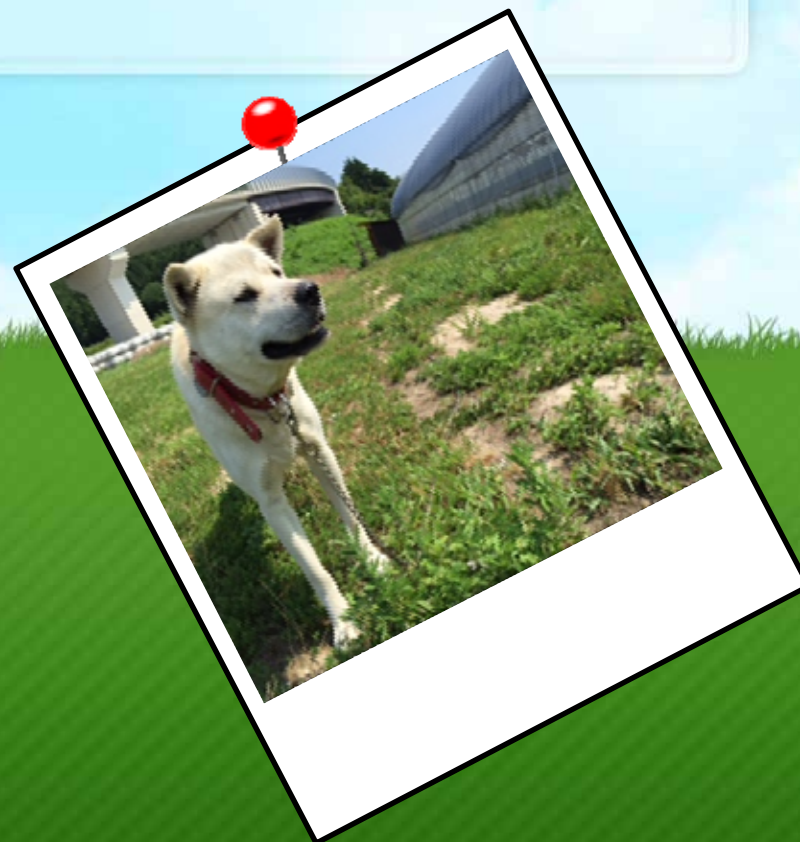
小川事業所 ～小川農場・作業～



小川事業所 ～地域交流センター『田園』～



作業風景



作業風景①



作業風景②



作業風景③



作業風景④ ～はぜかけ～



作業風景④ ～はぜかけ～






～農業は楽しく、可能性は無限大～

活動の効果

毎日の圃場での活動
自然豊かな環境
農業と福祉のジョイント
過疎地での事業展開



ほぼ毎日、圃場での活動をしており、それを地域住民や農地の持ち主からの管理依頼が殺到している。遊休農地になる前に預けていただけているので農地の管理ができています。また、自然豊かな環境で農業に取り組むことで、障がい者の問題行動が落ち着き、障がい程度区分の改善にも効果が出ている。過疎地でありながら農業と福祉をジョイントした事業取組は、サラリーで農業に従事できるということもあり市外・県外から就職者が増え、移住者が増えてきている。さらに事業展開することで雇用が確保でき、地元住民の働く場となり、地域の発展に寄与している。さらに加工場や販売に取り組むことから、意識を同じくする近隣農家から仕入れ等も行い地域農業の発展に寄与している。



『この世に無駄な人間はいない』『みんな違ってみんな良い』農業と障がい者支援をミックスすることで双方にケミストリーが発生します。手間手数がいる作業を農家は嫌いますが、障がい者はその部分で大きな力を発揮します。

農薬の配合や播種の時期など彼らができない部分を障がい者支援スタッフが担います。できないことはできない、だけど経験をたくさん積んでできることを増やしていくことは可能です。今まで社会の中で肩身狭く生きてきた彼らが、農夫として社会での存在意義を自らの手で勝ち取ることで明日の農業を担うことができるのです。

事業名	助成団体
H26 6次産業ネットワーク事業交付金	国
H27 都市農村共生・対流総合対策交付金	



補助金等の活用状況

気持ちにいちばん近い暮らし
だいじょうぶですか！と
あなたの今を気遣います あなたのこれからを気遣います
そんな家族の気持ちと同じ思いを胸に
私たちは 福祉サービスの質に取り組んでいます
必要なサービスと 必要になるかもしれないサービスを
いち早く心に添って 安心とともに お応えできること
今も これからも ずっと先も
あなたと 家族を 支える力になること

職員理念





EASY GOING FARM

Social Welfare Corporation E. G. F